

CITIZEN

2021年度（2022年3月期）  
第1四半期決算説明会

---

シチズン時計株式会社  
2021年8月13日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

## 2021年度第1四半期業績概要

---

広報IR室担当の古川です。  
2021年度第1四半期業績概要についてご説明いたします。

## 2021年度第1四半期実績

- 主力の時計事業、工作機械事業を中心に期初想定を上回り、増収増益
- 経済活動の再開に伴う売上高回復により、全事業で黒字達成

## 2021年度通期業績予想

- 1Q21実績を踏まえ、上期見通しを上方修正
- 売上高 2,680億円 (前回予想比 +80億円)  
営業利益 138億円 (前回予想比 +38億円)

## 2021年度配当予想

- 前回予想比+4.0円 (中間 +2.0円、期末 +2.0円) 増配  
18.0円 (中間 9.0円、期末 9.0円)

3

まず、今回の決算の主なポイントについて、ご説明いたします。

第1四半期決算につきましては、依然として新型コロナウイルスの感染拡大の影響は残りながらも、北米など主に海外において消費が回復し、主力事業である時計事業と工作機械事業を中心に業績が改善し、増収増益となりました。赤字を計上した前年の第1四半期から黒字転換し、全事業セグメントで黒字を達成、営業利益率は6.4%に回復いたしました。

また、第1四半期の業績が大きく上振れたことから、通期業績予想の修正をしております。

売上高は、前回予想比80億円増の2,680億円、  
営業利益は、前回予想比38億円増の138億円といたしました。

それから、業績予想の上方修正に伴い、配当予想も引き上げています。  
年間配当金は、前回予想比4.0円増の18.0円といたしました。

## 2021年度第1四半期連結業績概要

CITIZEN

(単位：億円)	2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	368	657	+289	+78.4%
営業利益	▲56	42	+98	-
営業利益率	▲15.3%	6.4%	-	-
経常利益	▲49	50	+99	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲67	43	+111	-
為替レートの影響	¥108/USD ¥118/EUR	¥109/USD ¥131/EUR	-	-

■ 土地建物売却益 8億円を計上（特別利益）

4

2021年度第1四半期の連結業績についてご説明いたします。

売上高は、657億円、前期比289億円増、78%の増収となりました。

営業利益は、42億円、前期比98億円増、

経常利益は、50億円、前期比99億円増となりました。

また、特別利益として土地建物の売却益8億円を計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は43億円となり、前期比111億円の増益となりました。

## 2021年度第1四半期セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	前年同期比	
			増減額	増減率
■ 時計事業	120	290	+169	+141.0%
■ 工作機械事業	100	186	+85	+85.2%
■ デバイス事業	104	131	+26	+25.7%
■ 電子機器他事業	42	49	+6	+15.0%
合計	368	657	+289	+78.4%
営業利益				
■ 時計事業	▲38 (▲31.8%)	14 (5.2%)	+53	-
■ 工作機械事業	3 (3.7%)	26 (14.3%)	+23	+618.6%
■ デバイス事業	▲7 (▲7.3%)	9 (7.1%)	+16	-
■ 電子機器他事業	▲3 (▲7.2%)	3 (7.4%)	+6	-
消去又は全社	▲11	▲12	▲1	-
合計	▲56 (▲15.3%)	42 (6.4%)	+98	-

5

セグメント別の第1四半期業績はご覧の通りになります。

時計事業は141%の増収、営業利益は53億円の増益、工作機械事業は85%増収、23億円の増益、デバイス事業は25%の増収、16億円の増益となり、その他の事業も含め、全事業が営業黒字となっております。

完成品販売

- 海外市場：北米が急回復したほか、中国も堅調継続。欧州も回復傾向
- 国内市場：緊急事態宣言の再発令を受け、低迷。新製品等が健闘

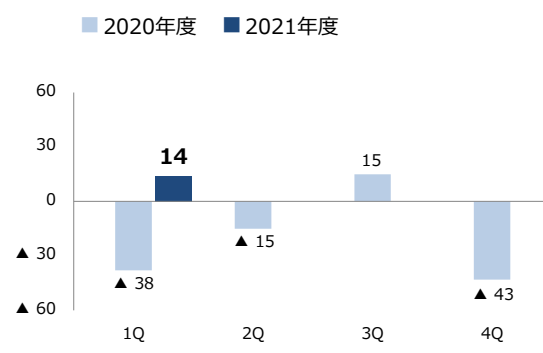
ムーブメント販売

- 機械式ムーブメントが堅調。アナログクォーツも北米向け受注が伸長

売上高(億円)



営業利益(億円)



6

それでは事業別の業績概況についてご説明いたします。  
まず、時計事業です。

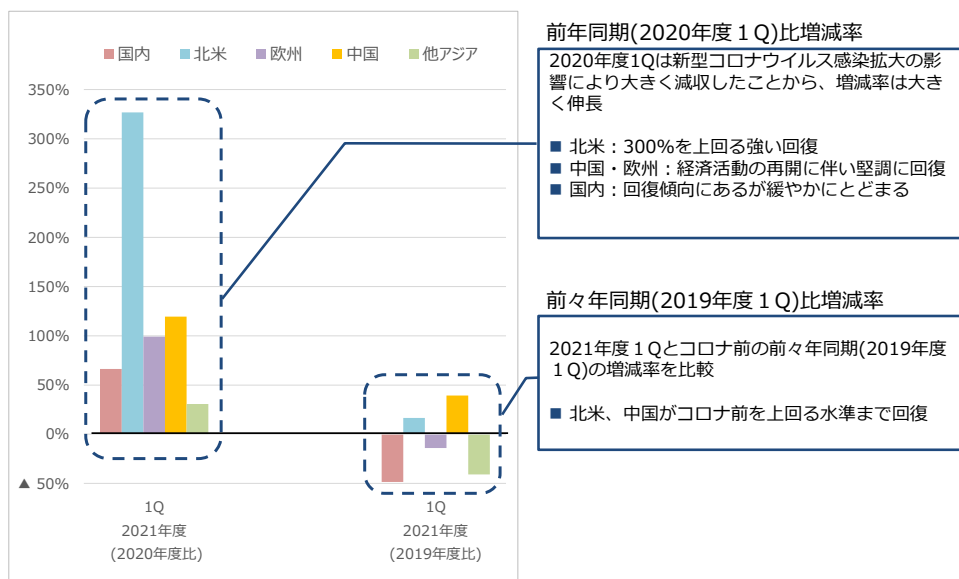
第1四半期の売上高は290億円、前年比169億円の増収となりました。  
完成品販売は、消費が上向き北米を中心に売り上げを伸ばし、中国もEC販売、実店舗販売ともに好調に推移しました。欧州も国毎に差はあるものの、前年からは大きく回復し、堅調に推移しました。

国内は緊急事態宣言の再発令を受け消費が低迷した中、「CITIZEN YELL COLLECTION」などのブランド横断企画商品やxC、ATTESAなどの主力ブランドの売り上げが好調に推移し健闘したものの、緩やかな回復にとどまりました。

ムーブメント販売は、引き続き機械式ムーブメントの売り上げが堅調に推移した他、アナログクォーツも北米向けなどに多機能製品の販売を伸ばしました。

また、営業利益につきましては、北米が想定を上回る消費回復となり、完成品販売を大幅に伸ばしたこと、またムーブメント販売の高付加価値製品の売上比率のアップにより、製造側の利益が改善したことなどにより、営業利益は14億円と、前年比53億円増の増益となりました。

■ 前年同期及び前々年同期比増減率



**前年同期(2020年度 1Q)比増減率**  
 2020年度1Qは新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減収したことから、増減率は大きく伸長  
 ■ 北米：300%を上回る強い回復  
 ■ 中国・欧州：経済活動の再開に伴い堅調に回復  
 ■ 国内：回復傾向にあるが緩やかにとどまる

**前々年同期(2019年度 1Q)比増減率**  
 2021年度 1Qとコロナ前の前々年同期(2019年度 1Q)の増減率を比較  
 ■ 北米、中国がコロナ前を上回る水準まで回復

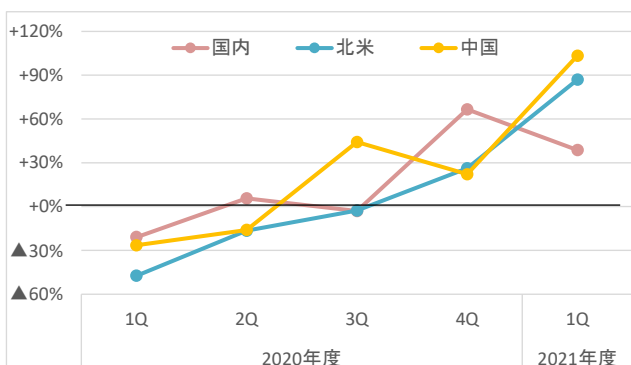
※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。その他の地域はCITIZENブランドのみの増減。  
 ※ 他アジアは中国を除いたアジア地域  
 ※ 現地通貨ベースの増減率

続いて、地域別の売上高伸び率についてご説明いたします。

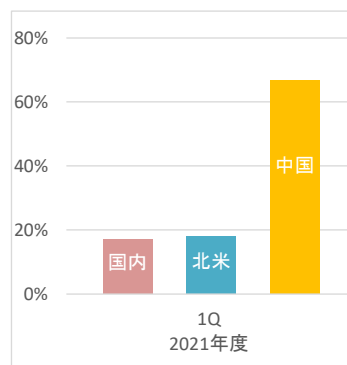
左側の棒グラフは地域別の前年同期比増減率を示しております。最も増加したのが、水色の北米地域ですが、前年比300%を超える増収率となりました。Eコマースも引き続き伸びていますが、デパートやジュエリーチェーンでの実店舗販売が大きく回復したことが寄与しました。また、薄紫の欧州と黄土色の中国は前年比で売り上げが倍増しましたが、国内と中国を除くアジアについては、感染拡大の影響により比較的緩やかな回復にとどまりました。

右側の棒グラフはコロナ前の水準との比較として、前々年同月比増減率を示しております。北米と中国はコロナ前の2019年度の水準を上回り、欧州も9割程度まで回復していますが、国内とその他アジアは回復が遅れている状況です。

■ EC販売 前年同期比増減率



■ EC比率



■ EC販売 前年同期比増減率

	1Q	
● 国内	+39%	デジタル広告の強化等が寄与し、ECイベントが好調に推移。ATTESA等主力製品が堅調に推移
● 北米	+87%	直販ECでは限定製品が伸長。既存ECもライブコマースイベント向け販売が伸びるなど、大幅増
● 中国	+103%	「618セール」では新製品が好調に推移。EC販売においても高単価製品が売り上げを伸ばした

※ 国内、中国はCITIZENブランドのみの増減。北米はCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。  
 ※ 増減率、EC比率はいずれも現地通貨ベース

この折れ線グラフは、昨年から注力していますEC販売のうち、主要3地域のEC販売の前年同期比の伸び率の推移です。

第1四半期の国内のEC販売は39%増、北米は87%増でした。中国は、Eコマースイベント「618セール」で新製品を中心に売り上げを伸ばしたこともあり、103%の増収となりました。



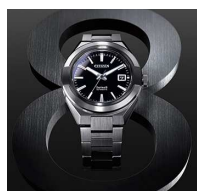
## Caliber 0200搭載『The CITIZEN』メカニカルモデル

高精度とラ・ジュール・ペレ社（スイス）との協業による高い審美性を実現したムーブメントCaliber 0200を搭載した『The CITIZEN』メカニカルモデル3モデルを発売  
（税込価格：605,000円、825,000円）



## 機械式時計ブランド『CITIZEN Series 8』

機能と実用性を兼ね備えたモダン・スポーティデザインの機械式時計ブランド『CITIZEN Series 8（シチズン シリーズエイト）』から3機種8モデルを発売  
（税込価格：132,000円～220,000円）



時計事業に関するトピックスですが、機械式時計の需要が堅実に伸びている中、当社でも機械式時計の商品拡充を進めています。  
シチズンの最上位ブランドである「The CITIZEN」から、11年ぶりに開発した新たな機械式ムーブメントCaliber 0200を搭載した新モデルを8月26日に発売予定です。  
また、8月3日に機械式時計ブランド「CITIZEN Series 8」からデザインと機能性を兼ね備えた8モデルの発売しています。日本をはじめアジア、北米、欧州で順次販売を予定しています。

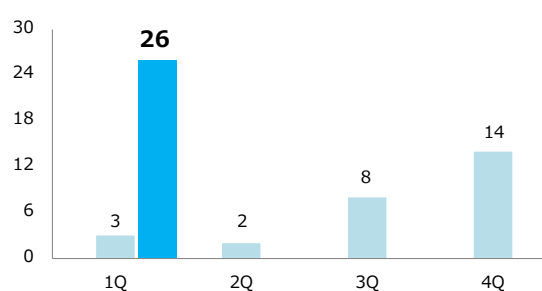
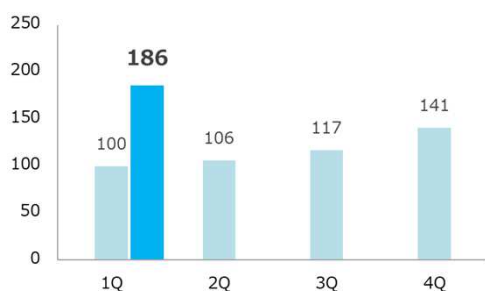
- 国内市場：幅広い業種で受注は回復しているが、自動車向けの回復が緩やかとなり減収
- 海外市場：中国が好調継続。欧州も旺盛な設備投資需要が受注を牽引し、増収

売上高(億円)

営業利益(億円)

■ 2020年度 ■ 2021年度

■ 2020年度 ■ 2021年度



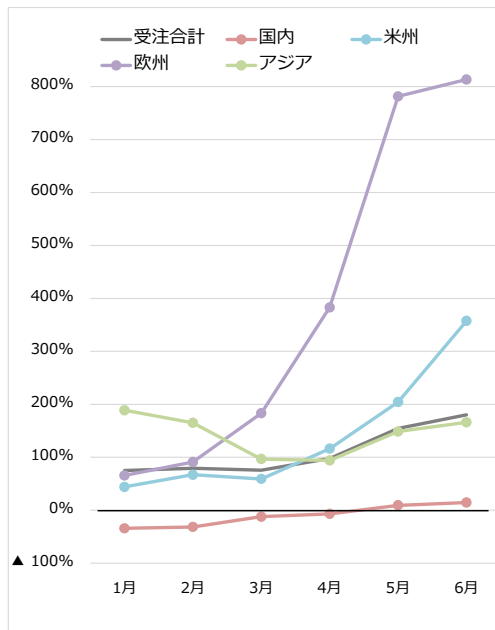
10

続いて、工作機械事業の業績概況を説明いたします。

第1四半期の売上高は186億円、前年比85億円の増収。営業利益は26億円、前年比23億円の増益となりました。

高水準の受注が継続している中、主に中国を含むアジア地域、欧州などで売り上げを伸ばしました。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 前年同期比増減率(四半期受注台数)

	1Q	
● 受注合計	+180%	1Q受注は金額、台数ともに過去最高を記録
● 国内	+15%	半導体、住宅設備、建機関連などが上向き 自動車向けも緩やかに回復
● 米州	+357%	医療関連を中心に幅広い業種から積極的な受注があり、増加傾向
● 欧州	+813%	経済活動の再開に伴い自動車をはじめ幅広い業種からの旺盛な受注を獲得
● アジア	+166%	IT、スマートフォン関連のほか、医療、自動車関連も好調に推移

続いて、地域別の受注状況について、ご説明いたします。

折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率です。右の表は、第1四半期の前年同期比受注台数の伸び率になります。

第1四半期の受注は金額、台数ともに過去最高を記録しました。

薄紫の折れ線は欧州ですが、自動車をはじめ幅広い業種から旺盛な受注があり、第1四半期の受注台数は800%超、増加しました。

水色の折れ線の米州は、医療関連を中心にさまざまな業種から受注が拡大し、第1四半期の受注台数は300%超、増加しました。

黄緑の折れ線は、中国を含むアジアです。引き続き好調な受注を維持しており、IT、スマートフォン関連の他、医療、自動車関連の受注も増加しています。

赤い折れ線の国内は、半導体関連や建機などで上向いており、これまで回復に遅れが見られていた自動車関連向けの受注も増えつつあります。

今年度は、部材調達を含め、増加した受注残の生産対応が業績達成の鍵となってくると考えられます。

ドイツ、イタリアに新テクニカルセンターを開設

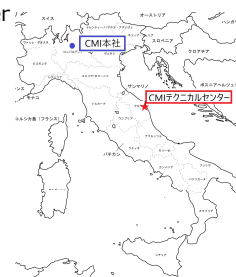
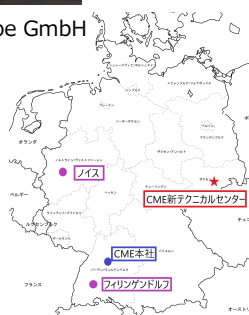
重要販売地域の1つである欧州の販売網強化ときめ細やかなサービスの提供を目的に、ドイツ、イタリア両国の販売会社に新たにテクニカルセンターを7月開設。



Citizen Machinery Europe GmbH  
Technical Center East



CITIZEN MACCHINE ITALIA s.r.l.  
Ancona Technical Center



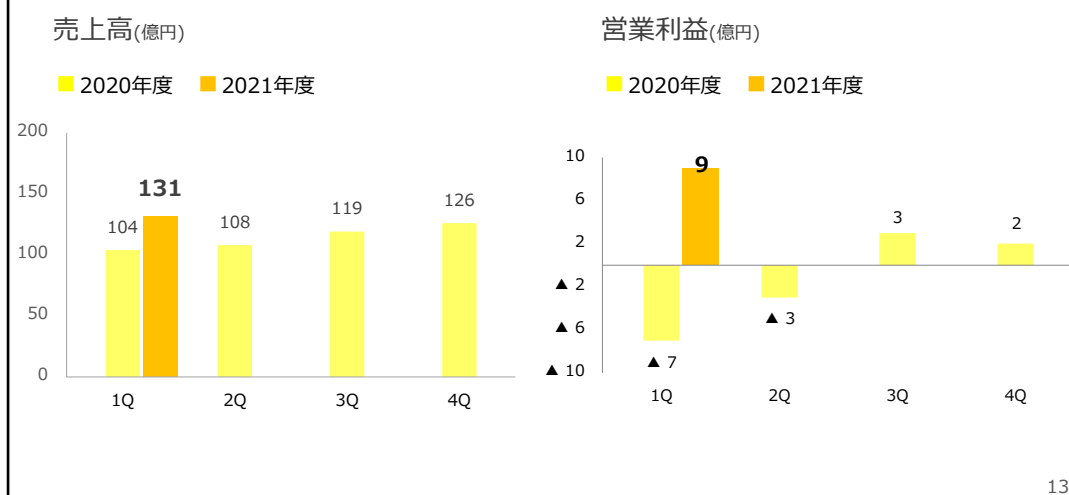
12

次に、工作機械事業のトピックスです。

今年7月に、ドイツ、イタリアに新たにテクニカルセンターを開設しました。テクニカルセンターでは、これまで販売会社で行ってきた営業対応に加え、ショールームを活用した加工技術支援など、ビフォアサービス、アフターサービスも強化し、より迅速にお客様に対応する体制を構築していきます。

ドイツ東部、イタリア中部の地域には自動車や精密機器などのメーカーが多く立地しており、今後も成長が見込まれている地域です。今回の体制強化により、さらなる欧州市場の売上高拡大を図っていきます。

- 精密加工部品：自動車市場の回復に伴い自動車部品が堅調に推移。スイッチも増収
- オプトデバイス：照明用LEDは欧米向け受注が回復。車載向け、ゲーム向けLEDも復調



最後に、デバイス事業の業績についてご説明いたします。

第1四半期の売上高は、131億円、前年比26億円の増収となりました。営業利益は黒字転換し、9億円となりました。

精密加工部品については、自動車部品が新車販売台数の回復に伴い引き続き好調に推移し、増収増益となりました。スイッチは増収となりましたが、スマートフォン向け顧客の在庫調整の影響を受け、足元の受注は減速傾向にあります。

オプトデバイスのうち、照明用LEDは、中国や欧州向けの受注が回復し増収となったほか、一般LEDも車載向けが復調し、売り上げを伸ばしました。

その他の部品では、水晶デバイスが通信関連向けの需要が増加し増収となった他、小型モーターも引き続き好調に推移しました。

## 2021年度 連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2021年度5/13予想		2021年度8/13予想		前回予想比増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,220	2,600	1,300	2,680	+80	+80
営業利益	35	100	73	138	+38	+38
営業利益率	2.9%	3.8%	5.6%	5.1%	-	-
経常利益	40	110	80	150	+40	+40
親会社株主に帰属する当期純利益	40	90	65	115	+25	+25
為替レートの	¥105/USD ¥125/EUR	¥105/USD ¥125/EUR	¥105/USD ¥125/EUR	¥105/USD ¥125/EUR	-	-

14

最後に、2021年度の業績予想について、ご説明いたします。

売上高は、前回予想比80億円増の2,680億円、営業利益は38億円増の138億円と上方修正しています。

経常利益は150億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、115億円の見通しです。

時計事業の北米市場を中心とした海外での消費回復と、工作機械事業における受注急回復により、上期見通しを引き上げました。

主に第1四半期の上振れ分の修正となります。

第2四半期予想につきましては、時計事業は引き続き好調に推移する見通しではありますが、国内の消費回復が想定より弱いことを織り込んだ他、タイの時計工場のひとつが7月に数週間、コロナ感染により操業停止となった影響も考慮しています。

また、下期につきましては、新型コロナウイルスの感染再拡大など不透明な部分が多いことから前回予想を据え置いています。

なお、前提とする為替レートについては変更しておりません。

## 2021年度 セグメント別業績予想

CITIZEN

		(単位：億円 / %：営業利益率)		2021年度5/13予想		2021年度8/13予想		前回予想比増減	
		上期	通期	上期	通期	上期	通期		
売上高	■ 時計事業	570	1,240	580	1,250	+10	+10		
	■ 工作機械事業	310	670	370	730	+60	+60		
	■ デバイス事業	250	510	255	515	+5	+5		
	■ 電子機器他事業	90	180	95	185	+5	+5		
	合計	1,220	2,600	1,300	2,680	+80	+80		
営業利益	■ 時計事業	12 (2.1%)	40 (3.2%)	27 (4.7%)	55 (4.4%)	+15	+15		
	■ 工作機械事業	40 (12.9%)	90 (13.4%)	53 (14.3%)	103 (14.1%)	+13	+13		
	■ デバイス事業	5 (2.0%)	15 (2.9%)	14 (5.5%)	24 (4.7%)	+9	+9		
	■ 電子機器他事業	2 (2.2%)	5 (2.8%)	5 (5.3%)	8 (4.3%)	+3	+3		
	消去又は全社	▲ 24	▲ 50	▲ 26	▲ 52	▲ 2	▲ 2		
	合計	35 (2.9%)	100 (3.8%)	73 (5.6%)	138 (5.1%)	+38	+38		

15

通期業績予想のセグメント別の内訳です。

時計事業については、売上高は前回予想比10億円増の1,250億円、営業利益は前回予想比15億円増の55億円、

工作機械事業は、売上高は前回予想比60億円増の730億円、営業利益は前回予想比13億円増の103億円とそれぞれ見通しを引き上げています。

私からの説明は以上となります。

**CITIZEN**



## 2021年度第1四半期セグメント別業績推移（2019年度比） CITIZEN

売上高	2019年度	2021年度	前年同期比	
	Q1実績	Q1実績	増減額	増減率
■ 時計事業	335	290	▲ 44	▲13.4%
■ 工作機械事業	157	186	+29	+18.5%
■ デバイス事業	145	131	▲ 14	▲9.7%
■ 電子機器他事業	60	49	▲ 11	▲19.3%
合 計	699	657	▲ 41	▲5.9%
営業利益				
■ 時計事業	6 (2.0%)	14 (5.2%)	+ 8	+119.6%
■ 工作機械事業	26 (16.7%)	26 (14.3%)	+ 0	+2.0%
■ デバイス事業	3 (2.4%)	9 (7.1%)	+ 5	+172.2%
■ 電子機器他事業	0 (1.2%)	3 (7.4%)	+ 2	+405.0%
消去又は全社	▲ 19	▲ 12	+ 6	-
合 計	18 (2.6%)	42 (6.4%)	+ 24	+133.1%